

令和2年度 沖縄地方ダム管理フォローアップ委員会
議事要旨

1. 日 時：令和3年1月28日（木）9：30～12：00
2. 場 所：沖縄総合事務局2階共用会議室D・E（Web会議併用）
3. 出席者：津嘉山委員長、大城委員、神谷委員、金城委員、下地委員、諸喜田委員、立原委員、古里委員
4. 議 事：「安波・普久川・辺野喜ダム 定期報告書（案）」
5. 主な意見
 - 洪水調節
 - ・事前放流は、水融通が難しい沖縄の利水の特性を考慮しつつ、行うのが望ましい。
 - 利水補給
 - ・統合運用の効果についてのわかりやすい評価方法（ダム何個分の量を有効活用できたのか）や、家庭での給水タンクが不要になったという隠れた便益によるPRも考えられるのではないかと。
 - ・渇水傾向だった平成28～30年の少雨年に対して、観光客数の目標値が達成された場合の水需給バランスをチェックしてみてもどうか。
 - 水質
 - ・近年、暖冬の影響から安波ダム底層の貧酸素化が進んだ。このままの状態が続いて金属濃度が上がり、底層の水の比重が上がると、全層循環しなくなる危険性があるため、今後の状況を注視していく必要がある。
 - 生物
 - ・陸封化されないヌマエビやテナガエビなどの種が上流で存在し続けているということに対して、どのような経路で遡上しているのか確認しておく必要があるのではないかと。
 - その他
 - ・水源地に容易にアクセスできる現在の状況について危機管理の面から見直しが必要ではないかと。水質に影響を与えるようなダム流域での不法投棄に対する監視や地元との取り組みについて整理をしてみてもどうか。